

タバコは「毒」

禁煙に挑戦してみませんか？



申畑重行医師

■タバコの歴史

タバコは、ナス科のタバコの植物です。その植物としての起源はアメリカ大陸で、タバコを利用する風習もアメリカ大陸の先住民のものであったようです。

1492年コロンブスがインド諸島のひとつの島に到達し、その後ヨーロッパの原因の約30%を占めるタバコは世界中に広がりました。

■喫煙による影響

喫煙により、慢性気管支炎、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患の危険が増大し、また単独で、がんの原因の約30%を占めるタバコは世界中に広がりました。

呼吸器系(肺がん、喉頭がん、口腔・咽頭がん)、消化器系(食道がん、胃がん、肝臓がん、膵臓がん)、泌尿器系(腎盂がん、尿管がん、膀胱がん)、性胃炎、歯槽膿漏や歯周病、脳萎縮、白内障、難聴、味覚・嗅覚の低下、骨粗鬆症、体液性免疫の低下、老化の促進などもみられます。

特に女性では、喫煙と経口避妊薬(ピル)の相乗作用で、虚血性心疾患やクモ膜下出血の危険性が著しく高まるので注意が必要です。また健康被害の低そうな低タールタバコは喫煙本数が増えることが多く、逆に一酸化炭素による虚血性心疾患の危険を高めます。

そのほか、胃・十二指腸潰瘍、口腔粘膜の角化および色素沈着、慢性萎縮性胃炎、歯槽膿漏や歯周病、脳萎縮、白内障、難聴、味覚・嗅覚の低下、骨粗鬆症、体液性免疫の低下、老化の促進などもみられます。

また、近年では健康増進法の施行やタバコ規制の枠組み条約の発効により、百貨店や学校施設・役所・病院などの極めて公共性の高い施設では受動喫煙防止を目的とした禁煙が進んでおり、喫煙者の皆さまは肩身が狭い思いをされているのでは

ないでしょうか。

禁煙治療を進めていく治療です。

■禁煙治療薬

タバコに含まれるニコチンはアルカロイドの一種であり「毒物および劇物取締法」に毒物として指定された物質です。薬理作用により中枢神経系の興奮と抑制が生じ、心臓・血管系への急性影響をもたらし、タバコを

パッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。

ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。

ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。

ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。

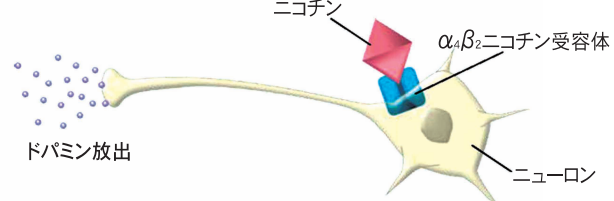
ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。

ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。ニコチンパッチよりも成功する可能性があります。



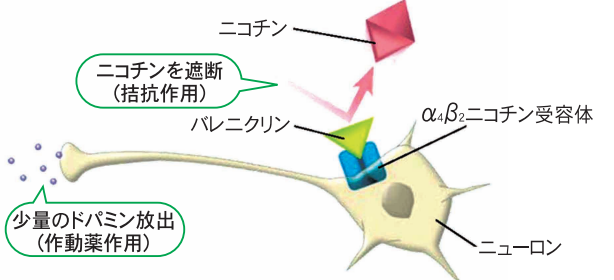
日本でのタバコの製造は日本たばこ産業(JT)のみが行っており、葉タバコの栽培は、JTと契約した農家だけが原料用として栽培することができます。日本でのタバコの消費量減少とともにJTは飲料、医薬、食品などの分野に進出しています。

■ニコチンの作用



タバコを吸うことで、タバコの中のニコチンが脳の神経細胞にあるニコチン受容体に結合します。そのことで神経細胞の末端よりドーパミンが放出され満足感などの快感が得られます。ニコチンパッチやニコチンガムはこのニコチンを補充することにより禁煙を進めていく治療です。

■バレニクリンの作用



バレニクリンを内服することで、タバコを吸ってもニコチンが脳の神経細胞にあるニコチン受容体に結合するのを妨げ、喫煙による満足感を抑制します(拮抗作用)。またバレニクリンがニコチン受容体に結合することで少量のドーパミンが放出され、禁煙に伴う離脱症状やタバコに対する切望感が軽減します(作動薬作用)。

大量の毒で快き死に至ればよいのですが、これは二一チエの皮肉でしょう。やっぱ毒は精神にも肉体にも苦痛を与えるものです。

■禁煙外来について
梶川病院では毎週水曜日午後3時〜午後5時に完全予約制で私が禁煙専門外来を行っています。電話での相談や予約も受け付けております。まずはご相談ください。

梶川病院(広島市西区天満町)内科 申畑重行医師

■おわりに

最近芸能人のみならず一般人が「大麻取締法」違反で逮捕というニュースをよく見るようになりました。一方で大麻の依存性はタバコよりも低いとしてその使用を認めようという議論が世界のあちこちで起きています。実際にはオランダのように大麻をソフトラッグとしてその使用を認める政策をとっている国もあります。しかし大麻は肺がんの危険因子であり、統合失調症やうつ病を悪化させることがよく知られています。大麻を通常のタバコのような嗜好品と勘違いしている若者が多いのは非常に残念ですし、依存性が低いと言っている大麻の手の入るための執念が尋常ではないように思います。

ときどき少量の毒を用いる。それは快い夢をみさせてくれるからである。そして最後に大量の毒を用い、快き死に至る。(ツアラトストラはかく語りきより)